

2019年度も、引っ越しのタイミングでの省エネ啓発を実施しました！

大阪府地球温暖化防止活動推進センターでは、2018年度に引き続き、大阪府、吹田市と連携して、転入・転居者を対象に「ナッジ」を活用した省エネ行動の啓発を実施しました（2019年10月～2020年1月）。

啓発においては、行動変容を促すための情報を盛り込んだリーフレットを作成し（＝ナッジの活用）、吹田市役所の転入・転居窓口等で配付しました。リーフレットには、前年度に啓発効果が確認された省エネ項目（例、LED照明に交換）を引き続き掲載するとともに、より引っ越しのタイミングで実践しやすい省エネ項目（例、おでかけ・通勤は電車・バスで）も新たに掲載しました。啓発効果の検証結果については次号でお伝えします！

啓発リーフレットに盛り込んだ行動科学の要素

転入・転居者用の例

同調性（社会規範）他の人が何を行っているかに強く影響を受ける

府内の温暖化防止活動のさらなる拡大のため、府内市町村においても同様の啓発が可能となるよう、大阪府と連携して水平展開のためのリーフレットを作成し、希望のあった市町村に提供しました

「ナッジ」とは 「ナッジ」という言葉を聞いたことはありますか。ナッジ (nudge: そと後押しする) とは、人々が自発的に望ましい行動を選択するよう促す仕掛けや手法を示す用語で、近年注目されているものです。



マスコットキャラクター「えこたま」



みどり公社HPにアクセス！



「えこっと」は地球環境を守るために、私たちの暮らしをちょこっと（少し）だけ、えーこと（良いこと：やさしい）、エコロジカルにしよう、大阪言葉を交えた意味を込めています。

編集・発行／大阪府地球温暖化防止活動推進センター
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 一般財団法人大阪府みどり公社
TEL.06-6266-1271 FAX.06-6266-8665 http://osaka-midori.jp/
編集協力・印刷／株式会社ウエルハーツ
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町17-1 コンパノビル 2F
TEL.06-6378-9500 FAX.06-6378-9550 http://www.w-hearts.jp/



SDGs を改めて考える 大阪エコパートナーシップ交流会

場所 エルおおさか 南 1023 号室

講師・進行 井澤 友郭氏 (こども国連環境会議推進協会 事務局長)

カードゲームを通して、SDGs を楽しく学びました。

SDGs カードゲーム「2030 SDGs」



SDGsのカードゲーム「2030 SDGs」は、2030年のわたしたちの世界がどうなっているのかを、シミュレーションするゲームです。

プレーヤー（今回は20チーム）は、「豊かな世界」を目指し、それぞれ自分達のプロジェクト（目標）を実施していきます。

ひとつのプロジェクトを実施するたびに、経済+1、環境-1、社会-1というように、「世界」に影響を及ぼすようになっており、「自分の行動が世界に与える影響」を考えなくてはなりません。ゲームは、前半後半に分けて行われました。

ゲーム前半は、大半のプレーヤーがプロジェクトを実施することに集中し、結果として経済だけが伸びているという世界に。これは「世界」が、環境や社会のことを考えない貧富の差が激しい世界であり、個々がプロジェクトを実施することだけを考えて結果だと言えます。後半は前半の結果を踏まえ、それぞれがどんな世界にしていきたいかを考え、「パートナーシップ」を大切に、コミュニケーションを図ったことで、安定した世界に近づいていきました。SDGsの17番目の目標のように、あらゆる人の協力でSDGsを達成する「パートナーシップ」がいかに重要かを知るきっかけになったと思います。



最後に

2019年度の計4回の交流会を通じて、世界の取り巻く問題と、その問題に対して真正面から取り組む方々の活動発表から、様々な環境問題を学びました。SDGsのゴールである「誰一人取り残さない世界の実現」を達成するには、交流会で得たものを共感で終わらせるのではなく、個々が日々できることから、「この世界を変革する」ことを意識して、活動していくことが重要なのです。

2月2日（日）に環境交流パートナーシップ交流会「SDGs環境交流セミナー」が行われました。今年度、3回開催をした「大阪エコ・パートナーシップ交流会～SDGsで未来を創る～」の総括となります。過去の交流会の内容を振り返り、また、SDGsカードゲームを体験することなどで、一人一人の意識と行動の変革が必要なんだと、改めて気づく機会となりました。なお、過去3回の交流会は毎回テーマを変えて行い、各回のテーマである「教育（第一回）」「自然環境（第二回）」「地域（第三回）」※次ページ、それらを豊かに育むために地域で取り組まれている活動報告を受け、今自分たちに何ができるかを考え、学んできました。

基調講演 SDGs について

SDGsとは、「世界を変革するための17の目標」であり、「誰一人取り残さない世界を実現する」ための持続可能な発展のための目標です。その1つの例として「アフリカのモザンビークの教育」について井澤さんが講演されました。モザンビークでは、小学校6年生まで学校に在籍している割合が31%（日本は100%）という事実があります。これは、モザンビークの7割の子供たちが、家族のために安全な水を遠くまで汲みに行くためであったり、特に女の子は幼いまま結婚することになったりと、通いたくても学校に通えない様々な理由があるからなのです。この問題はSDGsの目標【4】（質の高い教育をみんなに）に当てはまりますが、この【4】を解決するには、【6】（安全な水とトイレを世界中に）や【5】（ジェンダー平等を実現しよう）も解決しなくてはなりません。このようにSDGsの17の目標は、一つの問題でもそれぞれの目標がリンクすることが多く、どれも重要な目標（課題）であり、一つも欠かすことができないのです。

この他にも、様々な発表がありました！



- NPO法人 もく(木)の会
「自然と共に暮らす」をテーマに、シックハウスの防止のため、国産木材を使用した建築、木と触れ合うワークショップなどの環境啓発活動を発表。
- NPO法人エコネット近畿
環境活動団体に対して、組織運営力のスキルアップを目指した「情報交流会」を開催するなど、中間支援団体としての活動を発表。
- World Seed
天神祭で1,000人を超えるボランティアと一緒に取り組んだ「天神祭ごみゼロ大作戦」についての活動を発表。



えこっと OSAKA を購読しませんか？



えこっと OSAKA にご意見をお寄せください。

ご家庭や会社で取組んでいるエコ活動や、身近で地球温暖化防止に役立っている商品、設備、施設等ありましたら教えてください。その他、本紙の感想や取り上げてほしい特集なども、右のQRコード、または下記のHPよりお寄せください。みなさんのご意見・ご感想お待ちしております！

ご意見はこちらから <https://goo.gl/aZVbQn>



継続して購読されたい方は、1期（年3回発行）送付分の切手、84円3枚を添えて、郵便番号、住所、氏名、電話番号、何号分を送付をご希望かを記入のうえ、大阪府地球温暖化防止活動推進センターまで郵送にてお送りください。

●あて先 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 大阪府地球温暖化防止活動推進センター
お近くの市町村(環境担当部署)、消費生活センター、図書館、府民情報プラザなどでも配布しております。

えこっと OSAKA は、カーボンオフセット付の環境にやさしい情報紙です

本紙は1部あたり10.2gのCO₂（ライフサイクル）を排出しますが、これを大阪府域において実施された森林吸収（間伐促進型プロジェクト）で創出されたクレジットでオフセットしています。



大阪エコ・パートナーシップ交流会

開催レポート

SDGsで未来を創る 街～地域を育む～

11月9日に「大阪エコ・パートナーシップ交流会（第3回）」が行われました。テーマは「街～地域を育む～」です。「人と自然を尊重した暮らし」を、地域での取組みの実例から学び、自分たちの地域で生かす方法を皆さんと交流しながら考えました。

交流セミナー

「誰ひとり取り残さない世界の実現」

井澤さんの話は「あなたはどちら（都市 or 郊外）ですか?」という質問からスタートしました。1950年代では世界の「都市生活者」の割合は30%だったのですが、現在は55%まで上がっており、更に2050年には68%になると予想され、都市集中が進むにつれて、郊外の過疎化が深刻な問題となっており、SDGsでも、「住み続けられる「まち」の実現」を目標11に掲げています。

また、「数字」にまつわる話で、世界の都市部は陸地の3%であること、世界のエネルギー消費の60～80%は都市部であること、日本では6人に1人が相対的貧困であること、日本のジェンダーギャップのランキングが149か国中110位であることなど、一見バラバラに見えるこれらの問題は、「多くの人々が取り残されている」という共通の問題なのです。

また、グループワークでは「あなたの周りや生活している地域の“取り残されている人・コミュニティ”はどんな存在で、どのような状態なのか」をレゴ®ブロックで表現し、それぞれのテーブルでディスカッションを行い、自分たちが住む地域の現状と未来について考えました。

持続可能な開発目標（SDGs）とは

- 2015年9月、ニューヨーク国連本部において、193の加盟国の全会一致で採択された国際目標です。
- 気候変動や格差などの幅広い課題の解決を目指しています。
- 先進国も途上国もすべての国が関わって解決していく目標です。

人材育成講座

「住み続けられるまちづくり」をめざして

真庭市生活環境部環境課主幹の藤田浩史さんからは「ごみを生かして、循環による持続可能なまちづくり」について講演していただきました。岡山県真庭市の人口は年々減り続けている一方で、ごみの量と処理費用は変わらないという現象が起こっており、深刻な財政問題になっていました。そこで真庭市はごみのほとんどが、燃えるごみだということ突き止め、燃えるごみはきちんと仕分けできれば燃やす量を約1/6にできることがわかりました。対策として(1)生ごみだけを集める→(2)資源化(液体肥料)→(3)農業に利用→(4)農作物→(1)生ごみだけをあつめる→…という「真庭市にふさわしい廃棄物処理」を考案して運営しています。

真庭市やNPO団体が実行委員会として主催する「真庭なりわい塾」では、1年目に真庭についての座学のほか、フィールドワークやワークショップを通じて、農山村での暮らし方を学びます。2年目は地元の人と連携しながら、地域の課題や問題に対する解決策を仲間と模索しながら実践し、地元の人たちとパートナーシップを築きながら、「稼ぐための職業から生



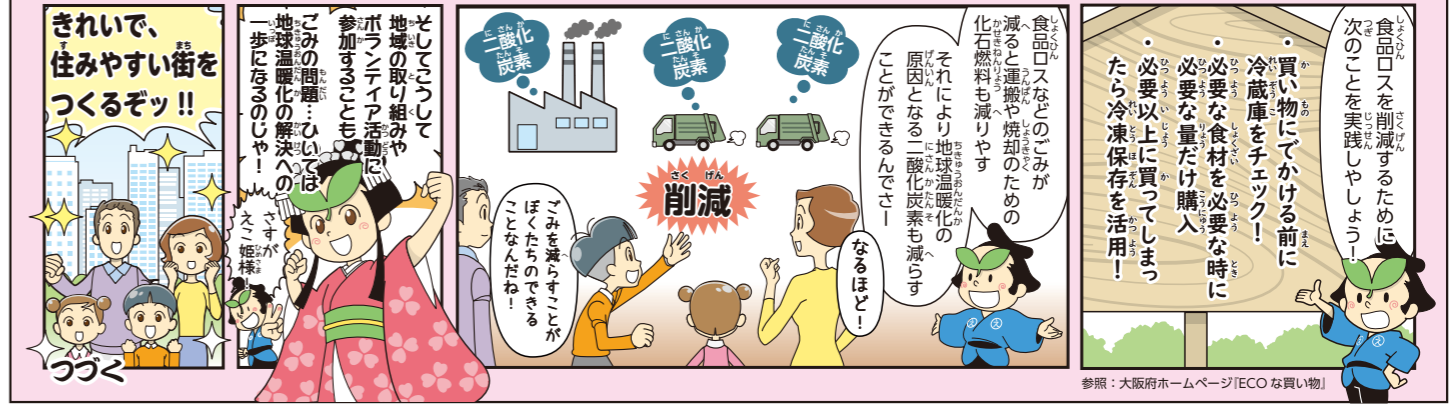
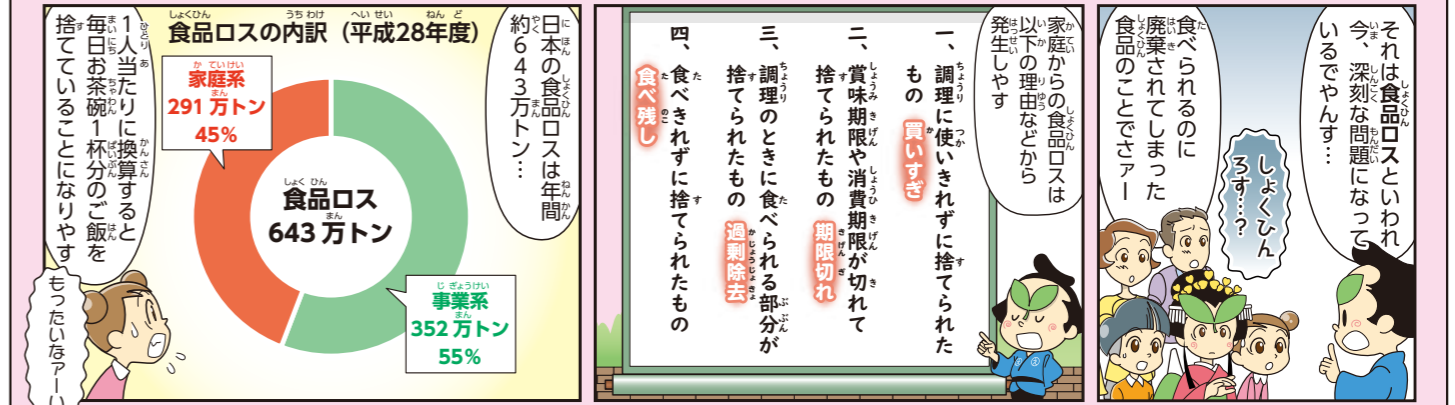
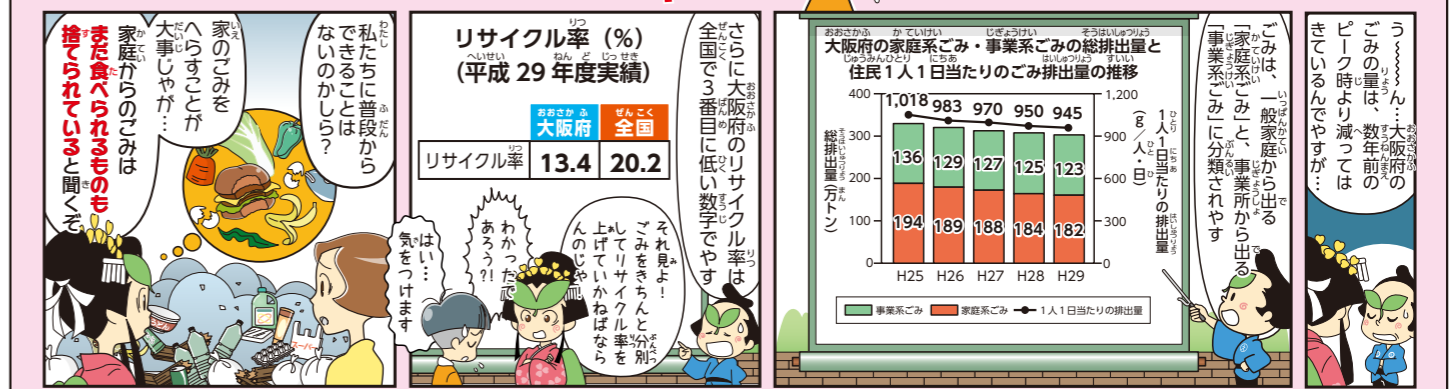
場所：大阪科学技術センタービル
講師・進行：井澤 友邦 さん（こども国連環境会議推進協会 事務局長）
講師：藤田 浩史 さん（真庭市生活環境部環境課主幹）
梶川 蘭 さん（真庭なりわい塾実行委員、ハッピークリエイター）
事例発表：城者 定史 さん（大阪ECO動物海洋専門学校 教務副部長）

きるための生業」を学んでいきます。

真庭なりわい塾実行委員の梶川蘭さんから、「10年後のあなたの地域はどうなっていますか?」と題してお話があり、「自分が住む地域の未来」と「自分にとってのパートナーシップ」についてをそれぞれ考えました。梶川さんは「目の前のあなたとハッピーをつくる」というスローガンを掲げられており、テーブルごとに目の前の人と「握手で相手を尊重する」ということを実践し、親睦を深めあいました。

「豊かな環境をはぐくむ」

城者定史さんは、大阪ECO動物海洋専門学校教務副部長だけでなく、ダイバー兼カメラマンでもあり「ダイバーの視点」で「学生に教えている視点」の両方から海洋問題にアプローチしながら、様々な活動を行っていらっしゃいます。大阪湾のお話では「大阪湾は汚くみえるけど、南のほうは生物が豊富である」と説明されて、アマモを植える活動の様子を発表されました。また、大阪湾は視点を変えれば、ダイビングスポットとしても宣伝できる可能性があり、環境資源を観光資源に変えるモデルケースにすることで、みんなの価値観を変えていきたいと今後の目標を話されました。最後に、「活動により何か変わったと感じたことはありますか?」という質問に対して、「海辺で暮らす人々の意識は変わってきており、「知れば」行動が変わる」と答えられていました。



会場ではセミナーでの話がイラストとともにリアルタイムにまとめられていきました